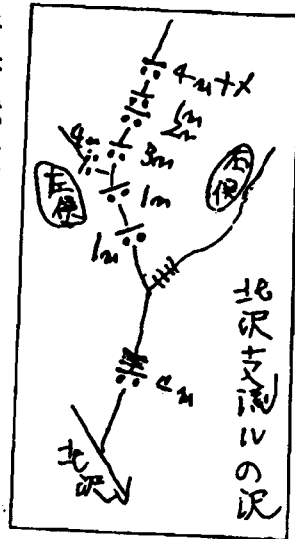


岩地帯になる。右俣同様にまったく平凡かと思っていたら、源頭近くになって滝が出てきた。まずは3m。右岸を直登。しっかりしたスタンスがある。そのあとも小滝が続く。いずれもホールド豊富。小滝群を越えた先が源頭であった。

二俣より下部はずっと花崗岩地帯である。しかしこの沢に限っては滝が少なく、シャワーを浴びつつクライミングダウンした4m滝が唯一であった。9:50下降終了。

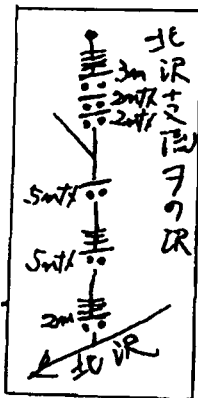
(記・)

【タイム】 右俣下降開始(8:45)→二俣(9:05)→左俣終了(9:25)→二俣(9:40)→下降終了(9:50)



### 北沢支流ヲの沢

1989年7月8日



ヲの沢(仮称)は短い。出合の小滝からしばらくは傾斜が緩やかであるが、そのあと5個の小滝が続いて、一気に高度を稼ぐ。最後の小滝を登れば、すぐ源頭になる。源は他の多くの沢と同様、岩屑の下から湧きだす清水である。

5個の小滝群はすべて直登した。いずれも花崗岩の滝で、安定したホールドがあるため、直登は楽である。(記・)

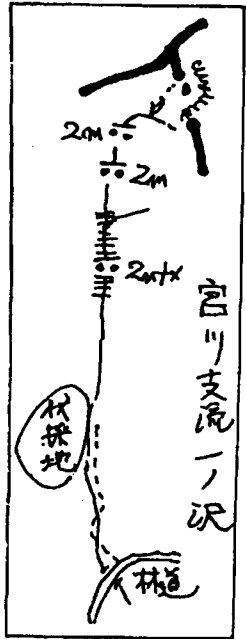
【タイム】 遡行開始(10:00)→終了(10:10)

### 宮川支流一ノ沢(仮称)

1989年8月12日

五ノ沢(仮称)源頭から尾根づたいにかすかな踏跡をつたって、一ノ沢(仮称)源頭の小ピークに出る。このピークは、山頂部が岩場となっていて樹林がなく、展望がよい。眼前に五来山と大笹山がそびえ、北沢流域がすべて見渡せる。6:05下降開始。

樹林帯の中を5分程下ると、一ノ沢の源頭に出る。そしてすぐ2mの小滝。ブ



ツシュを利用して下る。その先にも2mの小滝があり、ここには木馬道の残骸が残っていた。小さな沢で、等高線の傾きから考えても平凡な沢におわるだろうと考えていたので、実はちょっぴりと喜ぶ。しかしあとはずっと平凡。しかも右岸が伐採地となったあたりから、沢は伐採された木の枝で埋まり、とても歩けなくなる。しかたなく、左岸の踏跡に上がって下降終了とする。そのあと5分で林道福沢北山本線に出た。

(記・)

[タイム] 一ノ沢下降開始(6:05)→一ノ沢下降終了(6:30)

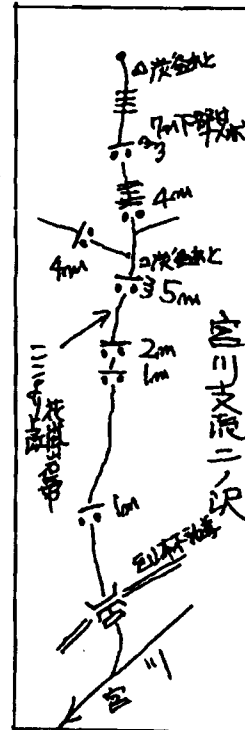
### 宮川支流二ノ沢(仮称)

1989年8月12日

二ノ沢(仮称)の出合はとても貧弱で、遡行意欲をそがれたがとにかく出発。案の定平凡な登りが続く。20分ばかり遡って、もう少し行ってから引き返そうかと考えていたら、岩質が花崗岩に変わり、とたんに滝が出てきた。5mのナメ滝。左岸が岩場となっていて、そこにイワタバコが可憐な花を咲かせている。案に登れるが、その先にも2つ滝が出てきた。両方共多くはないが適当にスタンスがあり、直登する。平凡な登りの果てにちょっとしたハイライトのある沢であった。

7:20源頭に達する。稜線直下、落葉の下からしみ出る感じで流れ出る水が水源であった。 (記)

[タイム] 二ノ沢出合(7:50)→遡行終了(7:25)



### 宮川支流三ノ沢(仮称)

1989年8月12日

7:55, 三ノ沢(仮称)の遡行開始。この沢は全く平凡であった。行けども行けど